

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	193800034		
法人名	株式会社 パシフィックケアサービス		
事業所名	グループホーム ゆとりの里三石(I棟)		
所在地	日高郡新ひだか町三石島舞344-6		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆとりの里三石は自然に恵まれた広い敷地に平屋造りで建っています。窓からは目の前に広がる太平洋や町内の山並みが見え夕暮れ時には水平線に沈む夕陽や美しい夕焼けが見られます。建物の周りには畑や花壇があり春の種まきから秋の収穫まで、利用者様と職員が協力し合って管理を行っています。また敷地内ではヤギや羊、鶏を飼っており羊毛は座布団やクッションに利用、新鮮な鶏卵はホームの食事に提供しています。近隣住民やご家族を招いてのバーベキュー大会やクリスマス会を初め、月に一回程度企画行事を行っています。建物内部は共用部分(玄関、廊下、脱衣所、トイレなど)のほとんどの場所に手すりを設置、居間や居室は大きい窓で太陽の光を存分に取り入れることができる造りになっています。災害時には迅速に消防署へ通報できるよう自動通報装置、スプリンクラーを設置しています。非常口も玄関2ヶ所を含め全5カ所あり災害時の避難経路は十分確保されており、年2回以上の避難訓練を消防署や地元消防団の方たちとも合同で行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0193800034-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tue&amp;JigyosyoCd=0193800034-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 3 月 18 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、小高い山と太平洋の海を望み、近隣には昆布温泉も有り、四季の変化を身近に感じる事が出来る自然豊かな環境に有ります。平屋造りの建物に2ユニットが併設され、明るく清潔で開放感があり、利用者は自由に往来し楽しんでます。運動会を始め季節の行事も合同で行い、利用者や職員はふれあう時間も長く、協力体制を築いています。町内会行事やホーム主催の行事、趣味活動ボランティア等を通して家族や地域住民との交流も深く馴染みの関係が築かれています。看取りケアも既に経験を重ね、家族からの感謝と信頼に繋げており、利用者には終の棲家としての安らぎを与えています。運営者は、人員確保に向け全員を正社員とし、資質向上を図る為に研修参加を積極的に促すなど、働き易い職場作りを努めています。職員はレクリエーション・お便り・掲示・行事・外係りを担当し、運営に参加しています。広い敷地には鳥骨鶏や羊、ヤギを飼育し、畑や花壇を耕すなど、職員は「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念に沿ったケアを実践しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解や応援が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域性を理解し事業所理念に基づいて地域資源も利用しながら実践している。	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の基本理念と共に、地域との連携を重視した運営理念を作り上げています。全職員の理念に対する意識が高く、年に1度職員間で話し合い、目的や目標を掲げ、ケアサービス提供場面での理念の具現・実践化に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の昔からにつながりを大事にしながら地域行事、サークル、敬老会に参加しつながりを保っている。	地域住民とは、町の蓬萊山祭りや地域の秋祭り、運動会、敬老会を始めホーム主催の夏まつり等で相互交流を図っています。管理者は認知症サポーター養成講座の講師を努め、更に地域にもホーム便りを配布して、地域における認知症ケアの推進に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトでの講習を生かして老人クラブやサークルで認知症について講座を開いた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では日々の取り組みはもちろん自己評価の結果報告をし意見を頂いた。今後の取り組みとして職員にも会議内容を報告する。	会議は、地域包括支援センター職員、地域住民、家族の参加を得て2ヵ月毎に開催しています。ホームの運営や利用者の状況、活動報告、外部評価結果報告等が協議され、サービスの向上に繋げています。会議をリビングで開催する事で、利用者、職員も加わり易く、更に思いを汲み取る機会となるのではと検討を進めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修や講習等の情報をいただき参加したりその時のニーズに対応して情報交換し入所などに繋げている。	運営推進会議を含めて、月に1度は行政担当者の来訪が有り、ホームの実情を伝えながら意見や指導を受ける等、共に連携してサービスの質の向上に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修などに参加した上で社内に持ち帰り勉強会を行っている。徘徊があっても施錠せずに安全に過ごせる方法、身体拘束しない方法を考えている。	職員は外部研修や月2回のスタッフ会議内での勉強会で、身体拘束や虐待の具体的な弊害について理解を深めています。玄関は夜間のみ施錠し、外出傾向にある利用者には、職員の見守りを強化すると共に地域住民との連携も図られ、自由な暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同様研修に参加し勉強会を行ったり利用者の入所以前の虐待情報を職員が共有理解しホームで生き生きと生活できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用しているが十分に理解できていない職員もいるので学ぶ機会を増やしていくことが必要。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分説明し理解していただいたうえで契約していただいている。入所後も家族からの質問には随時迅速に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時に意見を聞きサービスに反映し推進会議での報告も行っている。	家族の来訪時には利用者の状況を伝えながら、意見、要望等を伺う様に心掛け、運営推進会議においても意向の表出に努め、運営に反映させています。毎月発行の「ゆとりの里便り」には、利用者の写真と暮らしの様子が掲載され、家族に喜ばれています。季節行事には多くの家族が参加し、家族同士も馴染みの関係が築かれています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度は職員面談を行っている。代表者・施設長は意見を聞く心構えを常に持っている。	管理者は、日々の申し送り時や月2回のスタッフ会議にて、職員の意見、要望、提案を聞き取り、実現に向け取り組んでいます。年に1度、運営者、施設長との個人面談も設けています。運営者は、今年度はパート職員も正社員として採用する等、働きやすい職場作りに努めており、コミュニケーションも良く、意見や提案が言い易い関係が保たれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度はパート職員を正社員として採用。資格に応じた手当をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務暦にあわせて研修を受ける機会を設けている。また資格取得も積極的に後押ししている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設よりセンター方式の講師を招き勉強会を行ったり事例発表に参加し同業者との交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に包括支援センターから情報をもらい本人・家族との面談でニーズ・困っていることを理解し安心して入居できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記も含め入所直後は本人から話を良く聞き不安に思っていることはカンファレンスなどで話し合いサービスに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念を基に自ら参加したいと思えるような雰囲気作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方に住んでおりなかなか面会できない家族にも電話や手紙で連絡が取れるような支援をしている。また行事の際は家族に参加していただいたり、家族と共に外出・外泊できるよう家族と施設が協力し合って支援を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの地域資源(床屋、病院、温泉など)を利用している。また地域性や季節に合わせた外出の支援も行っている。	馴染みの商店での買い物や理美容室への訪問等は、家族や職員が継続支援に努めています。親しい友人や知人等の訪問や住職のお参りの時には、お茶をもてなし、寛げる雰囲気作りに心かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に利用者同士が関わりあえるような場が常に持てるよう職員は日々工夫している。また一人での時間も大切にできるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後入院された方のお見舞いに行ったり、家族にあつたら声をかけ近況を聞くなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	情報収集を行ったり普段からできるだけ本人の言葉を引き出せるような関係作りに努めている。	家族からの情報や生活歴を基に、センター方式を活用し意向の把握に努めています。利用者の担当職員が日常会話や表情、態度から本人の思いを汲み取り、ミーティングで情報を共有し、支援に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族からこれまでの生活歴などを聞き、センター方式を活用してサービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常一人ひとりの心身状態を観察し職員同士情報の共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を取り入れるためアセスメントをしっかりと行い家族には意見書を書いていただき介護計画に反映させている。	利用者個々の担当職員は、センター方式のアセスメントを基に3ヵ月毎にモニタリングを行い、毎月のユニット会議や全体会議にて職員間で話し合い、情報交換が行われています。更に意見書にて家族の希望や要望を伺い、介護計画に反映させています。3ヵ月毎に見直され、急変時には随時見直しを行っています。	前回の期待項目でありましたが、介護計画を活かす為にも、介護計画と介護支援記録が連動する書式の整備が望まれます。管理者を中心に職員全員で更に検討し、計画→実践→評価の流れに基づいた適切な記録方法の検討に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に支援のヒントやアイデアの項目を作り日ごろ観察している職員が記入。急を要するときは都度ケース会議を開いて迅速な対応に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊などその時の本人のニーズに柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の温泉へいったり敬老会に参加するなど地域の資源を生かし豊かな暮らしの支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のニーズに応え入所前のかかりつけ医とホームのかかりつけ医が連携できるように次の方向性を決めている。	協力医療機関による月2回の往診が実施されています。他科受診は家族対応が基本としていますが、職員も通院支援を行っています。看護職員が日々のバイタルチェックを行い、訪問看護師と共に、適切な健康管理が図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	夜間や緊急時など職場内の看護職や訪問看護師らと連絡を取り適切な対応ができるよう連携・協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族やかかりつけ医とも連携を図り早期退院に繋がった。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・かかりつけ医・ホームの三者で話し合い、重度化や終末期になった際の対応を面で交わしている。	重度化や終末期に関する対応指針を整備し、説明を行い同意を得ています。既に看取りを経験し、運営者が委員長となり、ホームで葬儀も行った事例も有ります。運営者は、利用者、家族、他の利用者、職員の心身の状態を踏まえ、医療機関、家族と情報を共有し、意識統一したケアを実践しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練、通報訓練など定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し24年度には自治会や消防団にも参加していただいて訓練を行った。	消防署指導の下に、年2回昼夜想定火災、津波、地震の避難訓練を実施しています。マニュアルも整備され、災害時の連絡網も作成しています。非常口は5カ所設定し、備蓄品も確保しています。	職員だけの誘導の限界を確認し、地域住民の参加及び具体的な協力体制への取り組みに期待します。様々な災害や予期せぬ緊急事態に向けて、慌てずに避難誘導する為にも、定期的な自主訓練を行うと共に、利用者向けに避難レクを検討する等、更なる防火対策強化を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修に参加した職員が研修内容をホームへ持ち帰りミーティングにて報告。人格の尊重やプライバシー確保の理解を深めている。	利用者がその人らしくあるために、意思と尊厳を大切に声かけを行い、誇りを損なわない様な支援に努めています。個人の記録は、プライバシーに配慮した管理が適切になされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせたコミュニケーションで本人の思いを聞き、自己決定できるようスタッフ一人ひとりが日々工夫を凝らしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の入浴希望などできる限り本人のペースにあわせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や白髪染めなど、本人の希望を聞き自分の意思でおしゃれを楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものや地域で採れたものを提供したり、お好み焼きや焼きそばなど、目の前で利用者と職員と一緒に作り食べる楽しみを提供している。	各ユニット毎に、利用者の嗜好を考慮したメニューを職員が作成し、夏場には畑で収穫した野菜や鶏卵も食材に取り入れています。行事食では出張寿司が利用者に人気を得ています。食事の際に今日の献立について話が盛り上がる等、職員は話題を提供し、食事を楽しむ支援に努めています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎年栄養管理士を呼び講習会を行い栄養バランスや食事量について理解を深め、提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎年職員には歯科衛生士による口腔ケア研修を実施し、毎日3食後の口腔ケアを支援している。必要にあわせ歯科受診もしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のタイミングを把握しトイレ誘導の声掛けなどでオムツやパットの使用を最小限にするよう努めている。	排泄チェック表を活用し、オムツ使用の利用者が、職員の丁寧な声かけや早めの誘導により、布パンツに変更したケースを始め、日中はパットのみで、布パンツ使用者が多く、全ての利用者がトイレでの排泄を大切に、自立に向けた支援に取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬によるコントロールだけでなく食事や飲み物による便秘予防に努めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望や入浴時間帯の希望など、できる限り本人に聞き希望に沿えるよう支援している。	入浴は週2回を目安に、利用者の希望に沿える様に努めています。各ユニットの浴槽は移動式と三方介助用式に分けて設置され、体調や状況により選択出来、利用者も気の合った者同士で入浴を楽しんでいます。拒む時は無理強いせず、利用者の気持ちに沿って支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく眠れるよう、状況に応じ寝具やベッドの交換など行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1年に2回から3回、薬剤師を招き服薬に関する講習を行い知識を深め、不要な服薬が無いよう症状の観察に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月運動会やお茶会などの行事や催しを立案し参加していただくことでそれに向けた張り合いや楽しみを感じてもらえるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員との買い物やドライブ、温泉への外出のほか家族にも協力いただき外泊や外食の支援を行っている。	行事係りが中心となり年間の外出行事を企画して花見や紅葉狩り等ドライブを楽しんでおり、昆布温泉には毎月出かけています。日常的には、広い庭を散歩したり畑作業や飼っている羊や鶏の世話をしながら、日光浴を楽しんでいます。個々の対応として、家族の協力も得ながら、受診日の帰りに買い物や外食を楽しむ支援に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じ本人の言葉を家族に代弁し本人の希望に沿った買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族への電話や手紙でのやり取りを日常的に支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには不必要なものは置かないように安全に配慮しながら居心地良く過ごしていただけるよう努めている。	共有空間全体がゆったりとした造りになっており、木の温もりが感じられ、落ち着いた環境となっています。リビングの一角には畳の間が有り、ソファも色々な形の物を配置し、一人ひとりが思い思いに寛げる空間が用意されており、トイレ、浴室、キッチン、廊下など清潔感が有り、明るく機能的な空間が提供されています。南向きの窓からは小高い山と海が望まれ、日々季節を感じながら、居心地良く過ごせる工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日、その時の状況に合わせて一人ひとりが快適に過ごせるよう、ソファや椅子のレイアウトを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みのものを置きつつ安全に配慮し本人や家族と相談しながら自立した生活ができるよう、たんすやベッドの場所を工夫している。	各居室にはクローゼットが設置されており、利用者はそれぞれに使い慣れた家具や鏡台、テレビ、ベッドなどを持ち込み、壁には趣味の絵や書の掛け軸が掛けられ、家族写真も飾り、居心地良く快適に暮らせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室には分りやすいように張り紙や表札をつけている。		